

# 施設のリスクマネジメントを再考する

近年は地震のみならず風水害・火山噴火等の自然災害のほか、新興感染症や物流の混乱に伴う資機材の不足などこれまでと異なるリスクも顕在化してきました。FMに対する要求では美観・機能性・経済性だけでなく、安全性や柔軟性がより重要となっています。

新型コロナウイルスの感染拡大は、施設内での感染症対策を急遽求めることになり、パブリックスペースの閉鎖やテレワークスペースの確保、換気機能の強化や消毒・検温・簡易間仕切りの導入および感染症対策資材の廃棄など、FMに対しても大きな負担を強いる結果となりました。

一方、今後の新型コロナウイルスの流行動向が見通せない中で、鳥インフルエンザ等の別の新興感染症の発生も警戒が必要なことも指摘されています。

また、2021年7月に発生した熱海市伊豆山の土石流災害は多大な犠牲者を出したことや爆発的に流れ下るSNSの画像などからわれわれに大きなインパクトを与えました。さらに原因が自然地形ではなく違法な盛り土であったことから、大きな社会問題となりました。

施設は立地リスクを考慮して建てられますが、建設後に人為的に上流域の地形が変えられてリスクが増大することにも留意する必要が認識されました(図表1)。

地震や風水害、火山噴火などの自然災害は相変わ

部会長 **上倉 秀之**

かみくら ひでゆき

Facility Management 防災 Lab  
認定ファシリティマネジャー



部会員 **重富 賢太郎**

しげとみ けんたろう

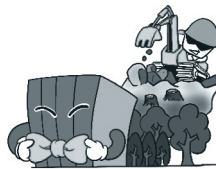


らず日本各地で発生しており、同じ被災地域内であっても立地場所や建物構造の優劣で被害が甚大となる場合と軽く済む場合があります。事前の立地リスクの検討と安全・安心に対する姿勢が重要となっています。

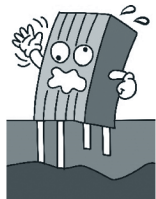
一方、2019年7月に発生した京都アニメーション放火事件では、多数の死傷者を出しました。その後も放火や刺傷事件が発生しており、防犯体制充実の重要性が増しています。

また、サイバー攻撃対応やテレワーク対応などITをめぐる要求も多様化しており、基礎工事の不正や要求性能未達部品、建築関係資材の不足・調達遅延などFMをめぐるリスクも時代とともに変化を見せています。(図表2)

そこで、リスクマネジメント研究部会では施設に係るリスクの洗い出しを行い、リスク要因を「自然災害」「事件事故」「社会変化」の三分野に大別し、「施設自体と設備」「物品と人」の視点から整理を行いました(図表3)。リストの細部は研究部会のサイト等で公開いたしますので、施設のリスクを検討する際にご活用ください。◀



図表1 建設後に立地リスクが増大することがある



図表2 基礎工事の不正などFMをめぐるリスクは時代とともに変化する

ファシリティ		物品と人 (什器備品、機材、データ媒体、重要品、商品人等)		建物自体と設備 (建物、建物部位、建築設備、業務用設備、工作物等)	
リスクの要因		何に	どのような	何に	どのような
自然災害	地震 (地震動)	①什器備品、機材 ②データ媒体、重要品、商品 ①～②全て ③人	①損壊 不動作(←ライフラインの不 通、バックアップ源 不足) ②消失、損壊 ①～②更新困難(←交通不 全、機材人材の調達難) ③負傷、致死、 孤立、帰宅困難(←交通 不全、避難自粛)	①建物 ②天井、壁等・開口部 (戸・窓・シャッター等) ③建築設備、業務用設備 (昇降機、照明、換気空調 給排水、通信)・工作物 (煙突、広告塔等) ①～③全て	①全壊、一部損壊 ②崩落、一部損壊・不動作 (歪み・浮腫)、ガラス損壊 ③損壊、不動作(←ライフ ラインの不 通、バックアップ源不 足)、倒壊、一部損壊 ①～③更新困難(←交通不 全、機材人材の調達難)
	津波 河川氾濫 (波力、浸水)	①什器備品、機 器機材、データ 媒体、重要品、商 品 ②人	①冠水、流失 不動作(←ライフラインの不 通、バックアップ源 不足)、 更新困難(←交通不全、機 材人材の調達難) ②負傷、致死、 孤立、帰宅困難(←交通 不全、避難自粛)	①建物、工作物 ・建物、建物部位、工作 物 ②建築設備、業務用設備 ①～②全て	①全壊・流失、 ・冠水、一部損壊、汚染 ②損壊、不動作(←ライフ ラインの不 通、バック アップ源不足) ①～②更新困難(←交通不 全、機材人材の調達難)

図表3 施設のリスク洗い出し